

山すそに住宅が建ちならんでいた厚真町吉野地区では、一瞬の山くずれで住宅22棟に被害がでて、19人が亡くなった。大規模に山がくずれたのは、山が火山灰でできていて、もろかったためという。当時のようすや山の成りたちについて取材した。

大規模な山くずれがおこった原因

目に入る限り、すべての山肌がくずれ落ちていて、地震の力のすごさをあらためて感じた。北海道大学の渡部教授によると、大規模な山くずれがおきたのは、山がおもに火山灰でできていることが大きな原因だという。

北海道中央部は、ユーラシアプレートに北米プレートがぶつかるところ。内陸地震は地下20キロ以下の浅い部分でおきることが多いが、今回は37キロの深いところでおきた。



高木友里 記者

4年以上まえに、厚真町から西へ約40キロ離れた火山で大きな噴火がおき、風に乗って大量の火山灰が飛んできてこのあたりの山々ができたという。その噴火のあとに、広範囲で大きな土砂くずれがおこった原因には、

赤茶色の山肌がむきだしに

土砂くずれの被害が大きかった厚真町吉野地区を、厚真町観光協会の原祐二さんの案内で見まわった。ニュースなどでは見ていたが、実際に現地をおとずれてみると、その被害は想像をこえるものだった。



吉田敢紀 記者

山すそには土砂がつもり、民家は見られなかった。土砂といっしょに流された木々が折り重なり、屋根がわらのかけらや鉄パイプ、はしごなど家庭で使われるものが多く散乱していた。山腹に昨年完成した

ばかりの浄水場のタンクはかろうじて残っていたが、となりにあった建物もはふもとに押し流されてしまっていた。

ただ、赤茶けた斜面のあちこちでは、山肌を固めたり、擁壁の基礎工事をしている重機が動いていて、復旧活動が進んでいることが感じられた。

厚真川をさかのぼり、完成して間もない厚幌ダムも見学した。地震による、

天気も関係していることがわかった。火山灰は水をふくみやすい。地震の前日には台風による大雨がふり、火山灰でできた土は水を多くふくんで重くなった。そこへ地震の大きな揺れが加わって、一気にくずれ落ちたらしい。

おどろいたのは、土砂がくずれはじめてから、ふもとまで到達するまでの時間だ。地震発生と同時に土砂が動きはじめて、ふもとまでは最速2秒で土砂が到達したそう。くずれるのが見えてから逃げようとしても、逃げきれないという

り、ダムの貯水池にも大量の土砂が入りこんだ。水が不足するといけないうので、貯水池そばの山をけずって、土砂に相当する水量を確保する計画だという。

この地区では、山すそに住宅が建ちならんでいたため、土砂くずれで大きな被害がでた。原さんは「山のふもとでは生活に欠かせない水を確保しやすいので、自然に住宅が建つようになったのでは」という。

ことだ。えぐれた山肌のそばに一部くずれなかった斜面があった。草のはえた表面をよく見ると、棒状のコンクリートが格子のように組みあわされていた。厚真町観光協会の原祐二さんによると、山くずれを防ぐための擁壁工事だった。原さんは「土砂くずれでは、樹木もいっしょに流されたが、人が手を加えた人工林は、比較的くずれにくかった」という。山の手入れをするとも、災害を減らすことにつながるのだと知った。

がくるとは思わなかった」と、ほとんど地震に対するそなえをしていなかったことも要因のひとつだ。このような声はこの地区以外でもよく聞いた。

本格的な復旧活動がはじまったが、まだ被災のつめあとが残っている厚真町



厚真町には吉野地区の山くずれによる被害が広がったことがわかった。半壊したと判断して、この山くずれの被害を受けた家々が、大規模な復旧活動がはじまったが、まだ被災のつめあとが残っている厚真町



完成したばかりだった厚幌ダムにも土砂が流れこんでしまった



厚真町観光協会 原 祐二さん

